1月

10 ⊟

|法人:一人一人の人間性にしっかり目を向けながら、こどもが安全・安心で自分らしく過ごせる居場所となることを目指します。事業所:①こども・保護者・支援者がいつも笑顔を大切にす 法人(事業所)理念 |る温かい教室にします。②子供たちの一人一人の個性を大切に尊重します。③地域の学校や児童クラブ、児童館等の地域とのかかわりやつながりを大切にします。 〇遊びを通して学習できる支援。遊び自体の中に子供の発達を促す重要な要素が含まれていることから挑戦や失敗を含め、自由な遊びを行います。 〇個別療育の実施。(一人一人抱えている課題や障害の特性に配慮した個別支援の実施。 視覚的なスケジュールの提示。) 支援方針 |○体育活動、創作活動への取り組みをスケジュールに積極的に取り入れることによって一人一人の子供に合った感性を育んでいきます。(特に長期休暇中) 営業時間 8 時 17 時 送迎実施の有無 あり 30 分から 30 分まで なし 支 援 内 容 ○定期的な心身の把握。(毎日のきめ細かい健康観察の中で常に状態をチェックして必要な対応を行う。体調の変化のある場合は保護者への状況の報告、看護師への連絡等を行う。) 〇基本的生活スキルの獲得。(衣服の着脱などの身だしなみの整え方、排泄、歯磨きトレーニングなどの生活に必要な基本的技能を得られるよう支援する。子どもの障害特性に合わせたイ |ラストなどを用いての視覚情報の提示) 健康・生活 |○時間に応じた行動の切り替え。(障害の特性に配慮し、タイマーやストップウォッチを使っての時間や空間を構造化する。) 〇自立訓練(個別または小集団で将来の生活に必要なスキルの獲得。障害の特性に合わせて手順書等を提示しながら掃除、洗濯等に取り組んでいく。) ○感覚の特性への対応。(リズム遊び、リズム体操、感覚教材、散歩、季節ごとの制作、いろいろな道具の使い方など取り入れながら支援する。) ○運動や動作の改善。(長期休暇など長時間利用などの際には地域の体育館を活用し、自由に遊ぶ時間を確保し、ルールのある活動の中で運動療育を行う。) |○視覚や聴覚、触覚を活用できるゲームやクイズを行う。(ボール遊び、ボール転がし、雪遊び、折り紙、絵本の読み聞かせ等) 運動・感覚 |○認知や行動の手掛かりとなる概念の形成。(認知教材*型はめやパズル、ブロックなど立体の造形物を使った創作活動、音楽・リズムを使って五感を刺激する活動などを活用して、取り組 んでいく。) 人支援 |○空間、時間、数の概念など認知発達を促す環境の設定。(スケジュールや時間の視覚化) 認知・行動 ┃○認知のこだわりへの対応。(一人一人の子どもを適切に評価し、認知の特性を把握し情報を適切に処理できる体制確保。保護者の方への情報も伝えることで具体的な支援につなげる) □○小集団の中での活動や遊びの中で、認知のこだわりに配慮しながら、適切な行動を取得する。 |○言語の形成と活用。(長期休暇などにみんなで考えを発表したり、好きなことなどをプレゼンテーション、ロールプレイ等をする。) I○挨拶や場面に合った言葉遣いや、人とのコミュニケーション能力の取得。

支援プログラム

作成日

2025 年

事業所名

コミュニケーション

放課後等デイサービス事業所えがおの教室

┃○小集団や集団での遊びやゲームを通して人とのかかわり方や接し方を学ぶ。(ごっこ遊びや夏祭りなどの模擬店を通して、人の動きを模倣することにより社会性や対人関係の芽生えを促 していく。) |Oレクリェーションなどでの集団遊びへの参加。(子ども自らが自発的に集団に参加し、手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるように支援していく。特に長期休暇など長時 人間関係 社会性 間の利用の際に環境調整やかかわり方を提案する。) ・子供に関する情報の提供と定期的な支援調整。 ・具体的な移行先との調整、相談援助、連携。 ・子供の発達上の課題についての気づきの促しとその後の助言、支援。 ・放課後クラブや児童館との連携を持つことで、地域交流の機会を提供 家族支援 移行支援 関係者、関係機関の連携による支援体制の構築。 し、集団への参加・適応する力を支援する。 ・相談支援事業所や他の障害福祉サービス事業所との連携。 ・定期的な個別支援会議。職員ミーティングの実施。 ・学校や併用利用事業所との情報共有。 ・職員の各種勉強会や研修への参加。 地域支援・地域連携 職員の質の向上 自立支援協議会等への参加。 ・季節の行事の実施。(夏祭り、ハロウィン、クリスマス、節分等)・・季節の製作。(こいのぼり、花見、サンタ等) ・長期休暇には外部講師によるレクリェーションや体験、ケーキ作り、かき氷づくり、歯磨きトレーニング、運動、バス旅行等の実施。 主な行事等 避難訓練の実施

|○指さし、身振り、サインなどの活用(子どもの発達段階に対応するコミュニケーション手段で、意思の伝達ができる機会を積み重ねていけるようかかわり方の調整をする。

○読み、書きに対する学習支援。(障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う)